

お民医連

2025年1月17日発行

【8面オールカラー】発行部数2,910部

第315号

発行元／青森県民主医療機関連合会

所在地／〒030-0803 青森市安方1丁目11-6-1F

TEL. 017 (723) 4076

FAX. 017 (773) 5326

URL <https://aomin.jp/>

e-mail info@aomin.jp



青森県民主医療機関連合会

会長 田代 実

謹んで新年のご挨拶を
申し上げます

新年あけましておめでとうござ
います。昨年も患者・利用者、地
域住民の生活に寄り添い、人権を
守る医療、介護、福祉活動の取り
組みに尽力されたすべての県連職
員に心から敬意を表します。

◆日本の高齢者の貧困―その現実―

唐鎌直義氏は、65歳以上の高齢
者の貧困測定基準として「実質的
生活保護基準」を設定し、これを
基準に政府統計等を用いて高齢者
のいる世帯の貧困率を算出してい
ます（具体的には年収として、単
身者で160万円、2人世帯で2
26万円、3人世帯で277万円
など）。それによると、貧困基準
に該当する高齢者数は788,1
万人（65歳以上の全高齢者数3,
588万人の22.0%）、貧困
高齢者世帯に占める生活保護受給
世帯は14.4%（漏救率85.6
%）となっています（以上はす
べて2021年時点）。日本の高
齢者は、5人に1人以上が生活保

護基準以下で生活しており、その
中で生活保護を受給しているのは
7世帯に1世帯ということになり
ます。

同氏は「公的年金制度など社会
保障制度がある先進国で、これは
どまでに高齢者の貧困が放置され
ている国は、日本だけ」と述べて
います（詳細は参考文献参照）。

◆ロストジェネレーションの存在

2007年に朝日新聞は、新年
企画でロストジェネレーションを
取り上げました。これは1993
年〜2004年頃まで新卒の求人
倍率が極めて低い時期に社会に出
た世代で、約2,000万人いま
す（現在概ね40歳〜55歳、団塊
ジュニア世代が含まれる）。この
世代は、非正規雇用や非労働力人
口の割合が高く、少くない人が
「不安定雇用」と「低賃金」を強
いられ、結婚や子育てする力を奪
われた結果、出生率は2005年
に過去最低の1.26に低迷しま
した（これが少子化の要因）。

2024年1月の朝日新聞で
は、この世代が高齢化する15年
25年後、単身で高齢化したロス
ジェネは自力で暮らせず「高齢貧
民街」ができてくれない、と述べて
います。社会保障制度の現状が続
けば、ロスジェネが高齢者となる
時期には貧困高齢者の実態は、現
在よりもさらに酷いものになると
推測されます。

◆「社会は変えられる」ことを考 えよう

日本社会は、お先真っ暗なのか
？改革の方策はないのか？
「民医連医療」誌の2024年11
月号に、大門実紀史氏の「日本経済
の停滞の実態と構造」が掲載されて
いますが、その中で氏は「国民負担
の軽減と社会保障の拡充こそが経
済成長につながる」と述べています。

昨年の総選挙で与党が過半数割
れとなり、今後の政治は、主権者
がどのような政治を求めるか、政
策の中味と要求運動にかかってい
ると思われまます。私たちはどのよ
うな政治を求めるのか、地域の
人々の実態を知り、学習と対話を
通じて要求をまとめていく、その
過程を通じて、未来は変えられる
ことを私たち自身が考え、学んで
いくことが大切だと思っています。
大変な時代状況の中、私たちの
事業の維持も大きな課題を抱えて
いますが、本年もよろしくお願
いいたします。

《参考文献》

- ①唐鎌直義「日本における高齢世
帯の貧困とは」（新日本出版社
『人生百年時代』の困難はどこ
にあるか」所収）
- ②大門実紀史「日本経済の停滞の
実態と構造―なぜ日本だけが賃
金が上がらない国になったのか
―」（『民医連医療』2024年11
月号）所収）

青森県民医連第57期役員

役職名		氏名		職種	
会長	田代 実	医師	田代 実	医師	田代 実
副会長	伊藤 真弘	医師	伊藤 真弘	医師	伊藤 真弘
副会長	相馬 由美	医師	相馬 由美	医師	相馬 由美
事務局長	寺島 達也	事務	寺島 達也	事務	寺島 達也
事務局長	宮本 康文	事務	宮本 康文	事務	宮本 康文
事務局長	対馬 康文	事務	対馬 康文	事務	対馬 康文
事務局長	柳谷 和範	事務	柳谷 和範	事務	柳谷 和範
事務局長	秋山 夏樹	事務	秋山 夏樹	事務	秋山 夏樹
事務局長	石田 晋吾	事務	石田 晋吾	事務	石田 晋吾
事務局長	磯谷 雅人	事務	磯谷 雅人	事務	磯谷 雅人
事務局長	漆谷 杏子	事務	漆谷 杏子	事務	漆谷 杏子
事務局長	小形 明子	事務	小形 明子	事務	小形 明子
事務局長	奥瀬 昭彦	事務	奥瀬 昭彦	事務	奥瀬 昭彦
事務局長	小山 尚樹	事務	小山 尚樹	事務	小山 尚樹
事務局長	角田 真大	事務	角田 真大	事務	角田 真大
事務局長	加藤 恵子	事務	加藤 恵子	事務	加藤 恵子
事務局長	古舘 正志	事務	古舘 正志	事務	古舘 正志
事務局長	今 淳一	事務	今 淳一	事務	今 淳一
事務局長	境 剛志	事務	境 剛志	事務	境 剛志
事務局長	坂戸 修	事務	坂戸 修	事務	坂戸 修
事務局長	崎野 良範	事務	崎野 良範	事務	崎野 良範
事務局長	佐々木 真人	事務	佐々木 真人	事務	佐々木 真人
事務局長	須藤 修	事務	須藤 修	事務	須藤 修
事務局長	関谷 渉	事務	関谷 渉	事務	関谷 渉
事務局長	田川 武	事務	田川 武	事務	田川 武
事務局長	竹内 千景	事務	竹内 千景	事務	竹内 千景
事務局長	橘 千裕	事務	橘 千裕	事務	橘 千裕
事務局長	塚本 健洋	事務	塚本 健洋	事務	塚本 健洋
事務局長	対馬 貴之	事務	対馬 貴之	事務	対馬 貴之
事務局長	内藤 紀子	事務	内藤 紀子	事務	内藤 紀子
事務局長	鳴海 尚和	事務	鳴海 尚和	事務	鳴海 尚和
事務局長	西村 美和	事務	西村 美和	事務	西村 美和
事務局長	宮沢 尚守	事務	宮沢 尚守	事務	宮沢 尚守
事務局長	村上 将仁	事務	村上 将仁	事務	村上 将仁
事務局長	八島 英二	事務	八島 英二	事務	八島 英二
事務局長	山崎 関	事務	山崎 関	事務	山崎 関
事務局長	荒木 中央	事務	荒木 中央	事務	荒木 中央
事務局長	菊池 敏子	事務	菊池 敏子	事務	菊池 敏子
事務局長	工藤 敏子	事務	工藤 敏子	事務	工藤 敏子

日頃のご協力・ご愛読に感謝をこめて **抽選で22名にお年玉プレゼント** 応募は定期便・封書・FAXで！
応募用紙及び応募の詳細は本紙8面に掲載しています。抽選結果は次号（3月15日発行）に掲載予定。応募締切／2025年2月14日



全日本民医連循環器 懇話会 in あおもり

どこまでできるか、民医連の循環器医療2.0
～多職種協働で挑む後継者の確保と育成～

青森県での開催は8年ぶりということで、春先からあおもり協立病院の内藤貴之医師が実行委員長となり、委員で協力して開催計画を立ててきました。

1日目はシンポジウムを中心に、民医連循環器医療における「後継者の確保と養成」そして「コメディカルが果たすべき役割」について意見を出し合い、考えを深めました。医師は働き方の改善を推進しつつ循環器の魅力を後継者に伝えていくことで、民医連の循環器医療をより活気ある活動にしていけるのではないかと議論がありました。また、コメディカルの立場からはチーム医療を主体とし、各スペシャリストの立場からは患者さんへのアプローチの内容



内藤実行委員長による開会の挨拶

を議論しました。

2日目は4つの分科会に分かれ、それぞれの分野での日頃の活動や取り組みについての発表があり



参加者の様子

ました。全部で69演題と多数の応募があり、各会場では非常に盛り上がったのではないかと思います。

1日目終了後にはホテル青森にて懇親会が開催され、県外からの参加者にスコップ三味線やねぶた囃子、そして跳人体験を楽しんでいただきました。

私は総合司会およびカメラマンとして業務にあたっていますが、コロナ禍で対面での開催がなかなかできず、中止やオンライン開催であったため、今回は久しぶりの現地開催となり、参加者の皆様の日頃の取り組みをもとに積極的な交流ができていたのではないかと感じました。来年度は岡山県で開催予定ですので、ぜひ奮ってご参加ください。（健生病院 放射線科 上田優人）



懇親会でのスコップ三味線体験

2024年度 第24回青森県高齢者大会

まちから村からの連帯で一人ぼっちの高齢者をなくそう
「憲法が輝く平和な未来と青森県を」

11月30日（土）リンクステーションホール青森にて第24回青森県高齢者大会を開催。当日は朝から雪が降る中、県内各地から275人が参加しました。

本大会主催者の青森県高齢期運動連絡会は、県内の高齢者が平和で豊かに暮らせる社会をめざすために、諸要求の実現を全国の仲間と連帯して運動を行っています。



大学院の特任教授鈴木宣弘先生に昨今の米騒動問題も含め「農業基本法の課題と日本の食・農を考える」と題して講演を頂きました。午後の学習講座は、金沢大学名誉教授の井上英夫先生に「日本高齢者人権宣言の意義と課題」と能登半島地震も含めて講演を

頂きました。今回、午前午後と座学となり参加者の皆さんは疲れたと思います。が、「知らないことが聞けてとても勉強になった」「人権宣言の存在を初めて知った」などの感想が寄せられました。高齢者大会は、自分たちの要求だけではなく国民的な要求運動を取り上げ、「学び」「実践を交流」する場として発展しています。参加者は毎年、楽しみにしています。（津軽保健生協 組織部 部長 八島将仁）

10月27日(日) ~ 28日

(月) 6年ぶりの対面開催となり、全国から701人が参加しました。2日間に渡り、「医療・介護の安全」「多職種連携」「職員の確保と育成」「健康の社会的決定要因」「アウトリーチ」など、29テーマの分科会とポスターセッションの演題が発表されました。津軽保健生協からは、健生病院4演題・藤代健生病院2演題・健生介護センター虹1演題・津軽医院1演題が参加しました。

1日目のオープニング企画では、熊本保健院・大水害の救助活動・労災職業病のとりくみ・水俣病のたたかいなど、熊本民医連の発祥と今日までを紹介する動画が上映されました。現地文化企画として、劇団天然木による「小さな水俣展」が上演されました。水俣病の実相やたたかいなど、水俣病被害はまだ続いていることを歌と語りで告発し、参加者の胸を打ちました。また、5つのテーマ「①ケアの倫理とケアの実践②認知症ケアを考える③安心して住み続けられるまちづくり④ほしい未来をみんなでつくる⑤困ったところに民医連あり」について、興味のあるセミナーに参加し全国の仲間と学びを深めました。

医療・介護体制の困難や高齢化が進み、多くの課題を抱えている患者が増加している中で、ひとつひとつの事例を共有し、また人権についてあらためて考える良い機会となりました。



(健生病院 副総看護長 葛西美香子)



発表する葛西副総看護長

青森民医連

第53回 看護介護活動研修会



11月2日(土)第53回看護介護活動研修会が3年ぶりに対面で、アピオあおもりで開催されました。参加人数は111名でした。開会あいさつでは、鳴海由紀子県連看護委員長より先の総選挙での民意のことや、貧困や生活困窮について国民が困窮し医療にもかかれな状況のお話があり、無差別平等の民医連の果たす役割は大きいこと、日頃の活動を本日研修会で交流して実践に活かしてもらいたいことが述べられました。

記念講演では、寺島由美県連副会長より「民医連看護

の今まで、そしてこれから」と題して、自らの年表とともに、職員をはじめとし管理者に支えられてきたこと、目まぐるしく変わる社会情勢の中で民医連の位置づけや今後運動を通して更なる成長を図らなければならないこと、ケアの倫理を大いに学び日々の仕事や生活に生かしていくことが大事であるとお話がありました。症例研究発表会では、発表がポスター含め3つの分科会でされ、オンラインとは一味違う生での声が聞け、とても良い感じであると参加者から声が上がっていました。半日という単位での開催に、講師・参加者・委員の皆様には様々な面で苦勞されたと思います。次回に生かせるように振り返りを行い、今後も感染対策を行いながら対面での症例発表会を開催していきます。(生協さくら病院 副総看護長 最上正一)



寺島県連副会長の講演



ファルマ浪岡薬局
薬剤師

ゆき た ゆ り え
雪田 友莉恵さん

今年の抱負は「健康」です。健康でなければ仕事もできないし、遊びも満足にできません。ましてや健康を取り扱う仕事なのに、恥ずかしながら運動不足に不摂生の日々が続いています。健康意識を向上させて、運動・睡眠・バランスの良い食事など、よい生活習慣を身につけたいと思います。



健生病院
事務

たか だ てつ じ
高田 鉄司さん

生まれて5回目、入職後4回目の年男がやってきました。全くめでたくありませんが、年明け早々勤続35年の1週間の休暇はめでたいです。

今年の抱負？業務的には現状維持できれば十分。個人的には歯科治療をサボらないこと。目標は少なく確実に、文章は短く、簡単に。欲張らないで過ごします。

核も基地もいらない

命どろ宝の島から東アジアそして世界の平和を希求する



嘉数高台公園から見える普天間基地

11月3日(日)～4日(月)に開催された第34回反核医師のつどいin沖縄に参加しました。Yang Szu Pang氏、駒込武氏ら講師陣によるシンポジウムおよび講演を聞き、沖縄と台湾における共通した歴史から、現在に至るまで軍事的緊張の背景を知ることができました。印象に残ったのは沖縄も台湾も日本による植民地支配をされた歴史があることです。日本の歴史教育において、日本による第二次世界大戦下の植民地主義については多くは語られていません。唯一の被爆国であると同時に加害の歴史があることを忘れてはならないの思いが深まりました。

企画前日の2日は南風原(はえばる)文化センターに行き、沖縄陸軍病院南風原20壕の見学を行いました。壕とは防空壕のことで、ひめゆり学徒らが傷病兵の治療をしていた場所です。壕の中は暗く湿っており、血や糞尿の香りが今にもむせかえるようでした。5日には普天間基地を見渡せる嘉数高台公園に行きました。この基地は「世界一危険な飛行場」と言われており、ヘリコプターが大学に墜落した事件が起きたにも関わらず、現在も民家の上を飛んでいます。騒音・墜落のリスクと隣り合わせの暮らしは平穏とは程遠く、悲しみと憤りを覚えられました。平和とされる日本において平和ではない日常を生きる沖縄の現状をまずは皆さんにも知ってほしいです。

(健生病院 研修医 宮澤千裕)



研修医1年目の栗石先生(右)と沖縄料理を食べた写真です。私は真ん中です。

なくそう! 日米軍事同盟・米軍基地

2024年日本平和大会

11月16日(土)、2024年日本平和大会がオンライン開催され、全国から約1500人が参加しました。全体会の模様をお伝えします。

約2時間の全体会でしたが、様々な活動報告と平和の訴えがありました。

昨年ノーベル平和賞を受賞した「日本原水爆被害者団体協議会」の代表委員 田中熙巳(てるみ)さんは、核兵器禁止条約に日本が署名・批准するよう訴えました。

元731部隊少年隊員だった清水英男さんの体験談を通じた平和の訴えや、ウクライナ・ドンバス出身の活動家ハンナ・ペコレダさんによる当事者としての平和の

訴えを拝聴しました。

全体を通じて、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのパレスチナ・ガザ攻撃に対する批判、基地強化反対運動の現状、憲法に基づく平和外交への転換の必要性などが議論され、平和の大切さを改めて認識する機会となりました。平和な未来のために、私たち一人ひとりができることを考え、行動することが大切です。

(株式会社ファルマ 本部 課長補佐 水木孝之)

五所川原市は令和2年から県内初の学校給食無償化を実施し、今年度からは市外に住む保護者も支援対象に加えています。

中泊町は介護予防事業に力をいれており、2月にオープンした中泊町総合福祉健康センター「湯らば」で通いの場づくりと併設ジムで運動による介護予防促進に多くの町民が参加されているそうです。また子どもの居場所づくりの一環としては、体験型学習を提供する「放課後子ども教室」や中学生までを対象とした「無料公設塾」を開設しています。

児童の自転車用ヘルメット購入費助成など町独自の取り組みもあります。介護予防と子ども施策に力を入れた理由を尋ねると、同町が高齢化率48%、出生数が約30人と人口減少への危機感からだと言及がありました。

毎年の懇談の積み重ねにより、国保料の引き下げなどの要求が前進していると感じます。今後も自治体キャラバンを通じて、地域から改善を求める運動を続けていきます。

(健生五所川原診療所 事務長 漆館杏子)

自治体キャラバン
要求は地域から。
あつましく、暮らしやすい
まちへ変えよう



五所川原市との懇談

中央あけぼの薬局
薬剤師おかだ さなえ
年女 岡田 早苗さん

自分が若い頃は、知識や経験が増えて仕事もできて…みたいな40代を想像していたのですが、なんとなく年齢だけ重ねてしまいました。体力も落ち、思うようにいかないことも多いですが、焦らずに一つずつやっていこうと思います。昨年は異動があり、新しい職場になりました。慣れない事もありますが、職場のみならずと協力して頑張っていきたいです。プライベートでは、自宅の物が多すぎるので断捨離をしたいです。

あおもり協立病院
健診科さいとう あずさ
年女 斎藤 梓さん

青森保健へ入職15年が経ちました。入院、外来の医事課を経て今は健診に携わっています。健診科では企業・健保毎に違った健診内容・料金・補助額などがあり、配属から約5年たった今も勉強の日々です。これからも多くの事を学び健診科の職員として、働く人々や地域の方、組合員の方たちの保健予防活動に取り組んでいきたいと思っています。私事ですぐ3児の母として、子供たちが健やかに成長できるよう邁進してまいります。



2024年度 制度教育中期研修

～ケアの倫理を学び、活かす～

10月22日（火）、23日（水）、29日（火）に中期研修を開催し、215名の参加がありました。今年度は「ケアの倫理を学び、活かす」をテーマに、岡山県労働者学習協会事務局長の



講師の長久啓太氏

長久啓太氏に講演していただきました。

「ケア」の定義や歴史などを学習し、1対1感想交流やグループワークを通して、ケアの倫理を学びました。講演を理解できたかの評価に対して95%以上が理解できたと回答があり、とても好評でした。1対1感想交流は、初めて実施する参加者も多かったですが、やってみると盛り上がっている様子が見られました。参加者からは「ケアの倫理と聞くと難しい感じはあったが、仕事・家庭・政治全てに関わることであり、納得できるところが多かつ



1対1感想交流

た」「ケアの定義について、今まで自分が考えてきたケアとは異なり、より深い概念を持つ活動であり、人間にとって不可欠な実践であることが分かった」などの感想が寄せられ、ケアの倫理への理解を深めました。

今回の研修で学んだ「ケアの倫理」を、医療・介護の専門職として、民医連職員として、日々の仕事や民医連運動に実践的に活かししょう。

（津軽保健生協 教育部 長谷川聖）

11月29日（金）～30日（土）青森県観光物産館アスパムにて、「第46期北海道・東北地協リハビリ技術者委員会主催 中堅研修」を開催しました。参加者は44名（委員含む）でした。

1日目は田代実青森県連会長より、「民医連中堅セラピストに求められること」と題し、昨今の社会情勢が私たちの医療・介護とどう関係しているか、目の前の患者・利用者さんにごう関係しているのか、人権を尊重する医療・介護はどうあるべきかなど多岐にわたる内容で講演いただきました。今後の業務においてどのように落とし込んでいくのかについても、グループワークを通じて参加者間で共有しました。

2日目は宮本達也青森県連事務局長より、「民医連セラピストに求められる経営の視点」と題し、各法人が抱える経営課題について、セラピストが経営に参画する意義、全職員が経営に参画する意義、財務三表の基本の「基」の部分の講演いただきました。宮本事務局長より「利益はあくまでも目的ではなく、目的を達成するための手段として必要」の報告に参加者が真剣に聞き入り、メモを取る姿は印象深く、主催者として開催した意義は大きいと感じました。

今回が1回目の開催であり、今後継続開催することで、地協内セラピストのスキルアップに寄与できればと考えております。

（北海道・東北地協リハビリ代表
健生黒石診療所 事務長補佐 對馬健洋）

中堅セラピスト研修開催

第46期北海道・東北地協リハビリ技術者委員会主催



第6回 青森県民医連

介護福祉士研修交流集会

医療従事者の腰痛発生率が増加傾向となっている現在、職員が安心して働ける職場づくりとともに、患者や利用者も安全にケアを受けられる職場を作ることが大切であること、抱え上げない・持ち上げない・引きずらない「ノーリフティングケア」について講義を受けました。



10月19日（土）に第6回青森県民医連介護福祉士研修交流会を開催しました。コロナ禍を経て、久しぶりの開催となりました。青森保健生協ヘルスサポートやすかた事務長の石塚理仁氏を講師に迎え、津軽保健生協・青森保健生協・八戸医療生協・社福虹から合計30名の参加で行いました。

講義後は、介護技術の基本やスライディングボード、福祉用具のリフトの操作方法など、実技指導をしていただきました。実際に実技をすることで体の使い方や工夫を学び、また、操作したことのないリフトに移乗するという、貴重な体験ができました。

今回の研修で、介護技術の基本や福祉用具を活用し、職員1人ひとりが腰痛予防の必要性を意識する機会になりました。（健生病院 5階東病棟 主任補佐 木村望）



共同生活事業所「あじさい」世話人

おさない みさこ 年女 小山内 美佐子 さん

入職して今年の5月で3年目を迎えます。初めは解らないことだらけでしたが、先輩方から毎日たくさんのことを学び、日々の業務に活かしております。

今年も色々な経験を積みスキルアップし、利用者さんとの繋がりを大切に日々の生活で感謝の気持ちを忘れずに精進していきたいと考えております。



看護小規模多機能ホーム 虹の家 介護福祉士

ないじょう ゆういち 年男 内城 雄一 さん

これまで数多くの出会いや色々な経験をさせて頂く中で、自分自身を成長させることができました。時にはくじけそうになった事もありましたが、上司や職場の仲間達に支えられて、何とか頑張ることができました。来年の抱負は、介護職として医療行為である喀痰吸引を自己学習とともに看護師より助言をもらいながら、安全安楽にするための技術を磨き利用者様の苦痛を少なくして、安心して過ごして頂けるようにすることです。



医師の受け入れと 定着を前進させるための 経験交流集会

(2024年11月20日(水) オンライン)

全国各地から212人が参加し

各地での特徴的な経験や取り組みを交流

この集会の目的は、①医師の受け入れと定着の課題の現状を確認するとともに各地の経験を交流する、②医師の働き方改革の取り組み状況を共有する、③常勤医師確保を前進させるための全国会議で確認された「医師確保の4つのポイント」(1)医療活動内容と理念、(2)労働環境、(3)処遇、(4)学べる環境」を改めておさえる、④医師・医学生署名の意義をあらためて掴み運動前進につなげる、この四点でした。



全日本民医連医師部長・山田秀樹医師の報告では「民医連全体の常勤医師数は横ばいだが高年齢化が進んでいる」「初期研修から継続率を高めるには医学対活動と民医連らしい初期研修の深化が重要」「多様な働き方・ジェンダー平等の視点も取り入れる。同時に、いかに退職を生まないかを重視する」といったことが強調され、当県連でも取り組んでいくべき指摘だと受け止めました。

他県連の取り組みでは、「常勤医師に対する年2回の定期面談」「医師だけでなく事務にとっても働きやすい医局づくり」「多職種・共同組織もまきこんだ診療所長オリエンテーション」など、学べるべき経験がありました。

医師の受け入れと定着に取り組むうえで県連・法人で何ができるか、という点も重要ですが、医師増員署名(医学科定員増、診療報酬の引き上げ)を大きく前進させることも併せて取り組まなければならないと考えさせられました。

(青森民医連 原圭輔)



左側：篠原奈緒理事、中央：山田秀樹医師部長、右側：木原望事務局長

医師国家試験と医学科入学試験の合格を願って

来年度の青森民医連入職予定医師7人へ「合格リンゴ」を送りました



青森民医連弘前事務所では、組合員さんの協力を得て毎年「合格リンゴ」を作成し、国家試験を控えた医学生と入学試験に臨む高校生に送っています。

昨年の医師臨床研修マッチングでは、7名の医師が健生病院に入職予定となりました。2月の国家試験に向け体調管理とモチベーションアップのため、担当者からのメッセージと一緒に手渡したところ、「これ食べて頑張ります!」「国試まで飾っておきます」など喜びの声が出されました。

入職予定者だけでなく関わりのある6年生にも渡したところ、「大学受験の時にも受け取りました」という声もあり、高校生の時からつながりある医学生も少なくありません。

これまで各事業所での医師体験や受験相談会に参加した高校生90人にも届けています。

受験生向けの奨学金説明会の参加者からも「合格リンゴだけでなく医師体験などで支えてもらった」「医学生になってからも自分を育ててくれるところだと思っている」「合格したら青森民医連の奨学生を検討したい」といった反応が出されています。

これまでの取り組みが生きたつながりになり、入職や奨学生誕生につながるのだと改めて実感する「合格リンゴ」になっています。



(青森民医連 原圭輔)

青年・ピースメイト委員会主催

ピースウォーク ⑩ 菊と紅葉まつり



11月2日(土)、弘前公園で開催された「ピースウォーク in 弘前城菊と紅葉まつり」に参加しました。弘前市と青森市から合計16名の職員と家族が集まり、ピースメイトタオルを掲げて戦争反対、憲法9条改憲の反対を訴えました。

イベント当日は天候にも恵まれ、参加された職員の方々は色づき始めの公園内の木々を楽しみながら、軽快な足どりで歩かれていました。また、今回のイベントの目玉である有料区域へ入ると、色とりどりのお花が綺麗に飾られていて、多くの来場者の方で盛り上がりつつありました。

今回のイベントは、街宣行動とは違う形で平和を訴えるということで、初めての参加ではありましたが非常に参加しやすいなと感じました。イベント当日は県連内などの他の行事が重なったこともあり、青森側からの参加者が少なかつたので、来年開催する際は多くの職員へ呼びかけをし、今年以上の盛り上がりになるよう頑張りたいと思います。

(青森保健生協 組織部 三上優太郎)



ショートステイ虹の郷 介護福祉士

つしましゅうや
年男 対馬 周也さん

入職して早くも2回目の年男になりました。今年はダイエット・肉体改造を継続しつつ、美味しいものを作り食べ晩酌するのが目標です。民医連活動の話になりますが11月に全国ジャンボリーが兵庫県で行われます。私自身、北海道東北の事務局として会議に参加しており、交流会や学習企画など模索している真っ只中です。青森県の青年職員を1人でも多く参加させてあげたいので、開催本番まで財政活動や各職場への勤務のご協力等依頼する事あるかと思いますが、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



藤代健生病院 臨床心理士

おおとも あや
年女 大友 彩さん

1年の抱負というところ、やはり心身の健康が真っ先に浮かびます。忙しいときほど適度な休息をとり、いろいろな状況を楽しむ余裕とユーモアを持ち、已年らしくしなやかに進んで行きたいものです。個人的には、仕事とプライベートのオンオフはしっかりはつきり、ざりっと働いた後は、タイムカードをピッとした瞬間に「今夜何食べようかな〜」と鼻歌できる毎日が理想です。皆さんにとっても健やかな1年になりますように!





組合員からは「ぜひまた参加したい!」との声を多くいただきました。今回の反省点を活かし、次回の開催へつなげていきたいと思えます。
(青森保健生協 組織部 小山内千尋)



11月10日(日) 青森産業会館にて5年ぶりに第28回健康まつりを開催しました。当日は11月の開催ということもあり天候や気温が心配されていましたが、気持ちのいい秋空が広がりました。来場者は2,300名となり、多くの地域の皆さんにご参加いただきました。オープニングのねぶた愛好会によるねぶた囃子、新城中学校吹奏楽部の演奏、中野みち子さんの津軽三味線演奏、浜田小学校のねぶた囃子演奏が始まると会場は熱気に包まれ、とても盛り上がりしました。職員・組合員によるステージ演出では、沖館支部の皆さんによるフラダンス披露、センター合唱団、ヘルスサポートやすかた職員によるマツケンサンバで老若男女問わず楽しむことができました。模擬店・展示ブースも合計で38店舗設け、組合員や職員が飲食店や手作りの作品を販売するなどし、来場者の皆さんに喜んでいただくことができました。

また、月間推進委員会によるアピールや、組合員コーナーの設置も行いました。新規加入1名、増資3名という結果となり、仲間ふやし・出資金ふやしだけでなく、青森保健生協のPRにもつながることができました。

2025年1月 第57期第9回理事会報告

- >> 1. 会長あいさつ
- >> 2. 全日本民医連理事会報告関係
- >> 3. 人事
- >> 4. 決裁・承認事項
 - (1) 奨学生関係
 - (2) 県連・地協・全日本関係
 - (3) 各種委員会から
- >> 5. 協議事項
 - (1) 経営部による津軽保健生協への乗り入れ点検を受けて
 - (2) 八戸医療生協への医師配置
 - (3) 看護奨学金の対象者拡大と特別奨学金制度の創設
- >> 6. 医師・医学生関連
- >> 7. 報告事項
 - (1) 全日本民医連通達・声明、地協関係
 - (2) 地協
 - (3) 県連・共闘関係
- >> 8. 各法人・事業所から

あなたと民医連をつなぐ月刊誌

いつでも元気

MIN-IREN

2025 2月号 380円 好評発売中

9条の碑 百年後の予言

けんこう教室 暮らしの保健室(下)

聞こえない医師の わたしの生きる道 大阪

核兵器も戦争もない世界へ

まちのチカラ 和歌山県かつらぎ町

食と健康 筋肉も喜ぶ高たんぱく料理

発行＝創保健民研研究所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター8階 電話 03(5842)5656 FAX 03(5842)5657

県連事務局人事往来

青森県連の看護介護事務局となり、久々の一人暮らしです。

他の局員の方々に助けられながら業務をこなしていますが、方向音痴のため、ナビが手離せない毎日です。

なんとか、体調を崩さずに業務に励んでいけたらと思っています。

よろしくお願いします。



着任 **今 麻希** (津軽保健生協 ⇒青森事務所) 12/1 付

帰任 **三上 智子** (弘前事務所 ⇒津軽保健生協) 1/1 付

退職 **おくざき 大** (青森事務所) 1/31 付

2025年 お年玉 AOMORI MIN-IREN 応募用紙

今年は巳年 蛇は復活・再生の象徴だそうです。そこで今回のお題は…

『生まれ変わったら何になりたいですか?』

例:「大谷翔平」好きなことをして人に夢を与える人になりたい
「飼猫」何の悩みもなく日々暮らしたい など

理由:

応募の詳細は8面をご覧ください。

うちの メコッコ

vol.
82

♥ name

サラちゃん
コザクラインコ
メス

♥ age

4 歳

4歳のコザクラインコ「サラちゃん」です。キレイな色とは裏腹に、とーっても大きな声で鳴くおてんば娘です。コザクラインコの習性で、紙をくちばしでキレイに細切りにし、それを自分の背中に器用に飾ったりします。大事な書類を置いておくと、見事にシュレッターしてくれます(笑)元々は兄のセキセイインコがいましたが、先に亡くなったので今は1羽ぼっちです。鳥好きな方であれば、鼻をうずめて匂いを嗅ぐことがあると思うのですが(他のペットでもあるのだと思いますが♡)コザクラはセキセイインコとまた違った匂いがします。1歳と3歳の我が家の子どもたちは、サラちゃんの大きな声の子守唄に育ったはずですが、お散歩のために小屋から出すと、まさに阿鼻叫喚。恐怖に震えています(泣)早く仲良く遊べるといいなあ…



(青森保健生協 組織部 成田麻央)

私の三つ星★★★

オススメ 麺屋やだら

八戸市にある「麺屋やだら」を紹介します。営業時間は、平日～土曜日は昼11:00～15:00、夜18:00～20:00、日曜日は11:00～17:00で、火曜日は定休です。

ラーメンの種類が20種類くらいありますので、看板で食べたいラーメンの番号を確認してから券売機に向かうとスムーズです。ヴィトン(美豚/塩豚骨)、天空の城ラスタ(油そば)等、ちょっと変わった名前のメニューがありますので、初めて行く方は気に入った名前のメニューを注文してみると良いかも知れません。

オススメは“黒”です。お店の看板メニューで、醤油豚骨のスープは臭みが無く、黒くなっているのはオリジナルの『黒マー油』を加えているからだそうです。

最後に地域の子どもたちへ無料でラーメンを提供する取り組みの“宝チケット”について紹介します。券売機にある宝チケット(200円)を購入→スタッフの方にチケットを渡す→チケットがボードに貼り出される→小学生以下のお子様ボードからチケットを取りスタッフの方に渡す→ラーメン(ミスターチルドレン)が提供される。

八戸にいらした際は、是非一度、お立ち寄りください。

(八戸医療生協 本部 佐々木啓太)

宝チケットのご紹介

少子化が進み
変化する様々な世の中の事情で
大切な子供たち(宝)が
食事をできないという現実

未来を担う子供たち(宝)は
私達日本国民全員の宝

そんな大切な子供たち(宝)に
自由に食べられる環境を
麺屋やだらは提供したい

賛同して参加したい方は
たくさんいるかもしれない
日本人みんな良い人だって思うから…

暮食とかじゃなく
遠くの国の誰かじゃなく
近所のあの子
角を曲がったところを歩いている子かもしれない

必要としている子供たち(宝)が食事できる

宝が活躍してゆく

日本国民の大切な子供たち(宝)を
みんなで育ててゆく環境

そんなところがあるのも良いと思う



日頃のご愛読・ご協力に感謝をこめて \ 定期便で応募できます /
抽選で **22名** にお年玉プレゼント

QUOカード 1等(2名)3,000円分 2等(5名)1,000円分 3等(15名)500円分

下の応募用紙を切り取り、必要事項を記入して定期便、FAX、封書にて青森民医連青森事務所までお送りください。当選者の発表は3月号(3/15発行予定)に掲載いたします。

❖注意❖ 郵送する場合は事業所の封筒や切手の利用はご遠慮ください。FAXの場合は、送信前に宛先番号のご確認をお願いいたします。

2025年 お年玉 AOMORI MIN-IREN 応募用紙



機関紙「あおもり民医連」

お年玉プレゼント 係

必ず、下記と7面の記入も忘れずにご記入ください。

事業所名

ふりがな

所属部署

お名前



応募締め切り / 2025年2月14日(金) 必着 定期便・封書・FAX (017-773-5326) にてご応募ください。